

令和6年度第3回小美玉市まち・ひと・しごと創生有識者会議会議録

日時	令和6年10月29日（火）午前10時00分
場所	小美玉市役所本庁2階 第2・第3会議室
出席者	<p><b>【有識者】</b>  馬渡座長、名和委員、綿引委員、笹原委員、戸田委員、  立原委員、遠藤委員、深谷委員</p> <p><b>【事務局】</b>  （市長公室）滑川市長公室長  （政策企画課）植田課長、海保課長補佐、大槻主幹、皆藤主事  （行革デジタル推進課）箕輪課長、高田課長補佐</p> <p><b>【コンサルタント】</b>  (株)都市環境計画研究所 澤田、藤本</p>
配布資料	資料1：小美玉市人口ビジョン・総合戦略に係るアンケート調査結果 資料2：小美玉市人口ビジョン 調査結果と課題の整理 資料3：第3期小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ダイヤモンド シティ・プロジェクト 計画体系と取組内容（案）

令和6年度第3回小美玉市まち・ひと・しごと創生有識者会議会議録

発 言 者	内 容
事務局	<p>1 開会 2 挨拶 3 協議事項 (1) 小美玉市人口ビジョン 調査結果と課題の整理について</p>
座長 委員	<p style="text-align: center;">＜資料1・2を説明＞</p> <p>事務局から説明ございました。ご意見・ご質問等ございますか。 資料2の(2)「④婚姻・出産・子育てについて」の現状分析と課題のところ「本市で子育てをしている人は、本市での子育て、定住意向が高い」と出ていて、それに対しての課題が「子育ての不安を取り除く必要がある」とか、「一体となった環境づくりが必要である」とあります。なぜここからこれが導き出せるのかよくわからなかったのですが、何を見ればわかりますか。「定住意向が高いのに、外に出てしまっている」ということがわかっているということですか。</p> <p>場合によっては、定住意向が高いのであればすでに満足していて、外からもっと子育て世代が入ってきた方がよいという話もあるかと思ひ、どちらになるのか。それによっては、おそらく課題が変わってくるのではないかと思ひました。</p>
事務局	<p>アンケートの結果から、小中学校のお子さんがない方よりも、小美玉市で実際に子育てしているの方が、「ずっと住み続けたい」という意向が高いということがわかりました。実際に小美玉市に住んで子育てをしていただくと、子育て環境が整っていて、住み続けたいと答えていただいている割合が高くなったことから、「充実した子育てサービスの内容を広く周知し、子育てへの不安を取り除くことが必要である。」としています。</p>
委員	<p>そうすると、今住んでいる子育て世代が、今の市の子育ての施策にある程度満足しているならば、課題に取り組む意味はあるのかと思ひましたが、いかがでしょうか。結局、今住んでいる人たちが満足するならば、他から入ってきた人たちも満足するから、どちらかという子育て世代を外から入れる方に力を入れる方向になるのではないかと思ひます。例えば、「当分は住み続けたい」という人を「ずっと住み続けたい」に上げようとしているのか。それとも、18歳～39歳の「ずっと住み続けたい」という人を増やしたいということか。どうしたいかによって、変わってくると思ひます。</p>
事務局	<p>こちらの表記としては、先ほど委員がおっしゃられたように、「当</p>

<p>座長</p>	<p>分は住み続けたい」と答えていただいている方を、さらに今後「ずっと住み続けたい」に持っていくということもごございます。</p> <p>一方、「市外に引っ越したい」や「まだわからない」といった回答をいただいているところもごございます。こちらにつきましては、将来転出してしまう可能性がある方と捉えております。それが、実際に小中学校にお子さんを通わせてみたら子育てしやすい、ということがわかっていただけるような回答になっているということは、市側の制度の周知も足りないのではないかとということです。積極的に周知を行って、「市外に引っ越したい」と「まだわからない」の割合を減らしていき、子育てに重点を置く本市の取組を知った市外の方が転入してくるような流れにできればと考えております。</p> <p>現状分析とはアンケートの結果だけではなく、これまでの調査も含めての現状分析ということでしょうか。アンケートだけではなく、これまでの分析結果があり、その結果定住意向が高いのだと。その上で、アンケートも踏まえて、それでもなお足りないところがあるからだとか、そういう視点で書いているのでしょうか。それとも、小美玉市から出て行かせたくないからこのような形で課題に設定しているということであれば、ヒト・モノ・カネは動くものなので、これはこれでいいのではないかと思います。「まだわからない」などと回答した方に対しては、多くの方が納得できるような施策をさらに上積みしていく、ということでしょうか。</p> <p>要するに、「今のままでもよいのではないか」という意見に対し、「なぜ上積みするのか」という根拠が必要なのではないかとということをお聞かされているのだと思います。「現状のままで高い数値であれば、引き続きこのままでよいのではないか」という結論になりはしないか、ということです。</p> <p>一度、次の素案についても、議論した上で、全体でまたお話を伺いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p> <p>座長</p>	<p><b>3 協議事項</b></p> <p><b>(2) 小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 計画体系と取組内容について</b></p> <p style="text-align: center;">＜資料3を説明＞</p> <p>政策分野が4つ、そしてそれに横串を刺すような形で、ツールとしてデジタルを、という説明でございました。では一括ではなくて、まずはそれぞれの政策分野ごとに、ご議論、ご意見をお願いすることになります。まずは政策分野1、結婚・妊娠・出産・子育てに関するものでございますが、これに関して、ご意見・ご質問等ご</p>

委員	<p>ざいますか。</p> <p>アンケート調査結果の中で、自由記述の回答で先ほど事務局から説明がありましたが、保護者の方または18歳～39歳の意見の中で、特に小美玉市は公園が少ない、十分な遊具を持った大規模公園もないと。そういうことで、3ページの子供の遊び場の整備、当然公園も入っていると思いますが、記述の中に、「居場所づくりを進めます」とあります。しかし、「遊び場の整備」という文言が入っていないので、記述していただければと思います。</p>
委員	<p>屋内の遊び場、子供の遊び場は、やはり小美玉は少ないと思っていました。</p> <p>ただし、そういう施設を作ったとしても、作っただけで終わってしまわないかということが気になっています。例えば、羽鳥駅前にそういう施設ができました、遊びました、で終わりとなってしまって、外から来た人もそこで遊んで終わってしまうのではないかと考えています。遊び場の整備に対して、周辺への経済効果等プラスアルファがあるとよいと思っています。お金がかかるので難しいと思いますが、そういったところまで考えていかなければならないのではと思っていました。</p>
座長	<p>確かに、ただ作ればよいということではなく、その後の効果、子どもだけではなく経済効果、そういったところへの波及効果があればよいと思います。他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>冒頭の出会いに関する部分で、「デジタルを活用した出会いの創出」とありますが、実際にデジタルだけで、若い人の出会いや結婚が進むのだろうかと思うところがあります。会社でも、後輩等がマッチングアプリを4つも5つも入れて、サブスク貧乏になっているという状況です。力を入れるのはそこだけなのだろうか。結婚に至るまでといいますか、した後も含めて、生活を成り立たせないといけないという経済的な知識・リテラシーのようなものを伝えていかなければならないと思います。もう少し若い段階、就職を意識するときなどに合わせて、少しずつでも伝えていくことが、必要なのではないかと考えています。</p> <p>あと、デジタルを活用した出会いのサポートは県がやっているのですが、サポートセンターの登録助成があると思いますが、なるべく地元で登録してもらった上で、市内でそういう方々がいるというのがわかる、そういう方々が集まる機会をうまく作ってもらえると思います。結果的に、よその人よりは、地元の方がいろいろわかりやすいですし、自分の住んでいるところのいいところも悪いところも含めて、会ったときに話せると思います。全然知らない地域の人同士だと、なかなかそこは会話が難しいと思うので。県のやって</p>

	<p>いる事業と合わせてというところがあるといいと思います。</p> <p>県のサポーターの方が、結構厳しいことを言っていました。「経済力がないと駄目です」など、痛いところも含めて若い人に伝えていました。そういう、久しく世の中の的には忘れられている感じの、世話焼きしてくれる人を増やしていくとよいと思います。ある程度一般論・知識といいますか、方向性を早いうちに示してあげたほうが、おそらくよいかと思います。地域でそういうことをできる人を増やしていけるといいと思います。</p> <p>愛着を持ってずっと住んでいる人はそれなりの方だと思います。そういう人たちが中心になって、若い世代へ伝えていけるような枠組み、できれば最終的におせっかいを焼いてくれるような人になっていただくことが一番いいと思いますが。とても昔ながらな感じではありますが、あまりデジタルに力を入れすぎても、今見ているとマッチングアプリ疲れのようなものがあります。そうではないリアルな活動を、ぜひトライしてみていただくとよいと思っています。</p>
委員	<p>私もマリッジサポーターの1人でありまして、この4～5年間の中で、20件ぐらい実施しているのですが、その中で1件だけ成婚しました。やはり、デジタルも今はありますけれど、アナログの、人と人が繋いでくれる部分も残すことも大事かと思っています。</p>
事務局	<p>それと、子育てアプリですが、どのぐらいのことを市で考えているのかお聞きできればと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>子育てアプリの方は当市の方ですすでに導入しています。ただ、子育て世帯の方から、使用しにくいというご意見が寄せられております。所管課と調整し、双方向でやりとりできるような形も含め、使用しやすいアプリに改修していきたいと考えております。</p>
委員	<p>子育て記録アプリなどは民間で出てきているものもありますので、それが自治体と繋がって情報発信もできるようなもの方向に向かっていただけるとありがたいと思います。その充実もよろしくお願いします。</p>
座長 委員	<p>他にいかがでしょうか。</p> <p>合計特殊出生率を上げるということで、新しく結婚した方が産むということの他に、すでに住んでいる方が3人目、4人目を産むという視点も出てくるかと思っています。今の課題として、現在の子育て可能な子供の人数が2.1に対して、理想は2.6といった数字も出ていますが、この数字を上げていくための施策は、経済負担の軽減というところに含まれているということでもよろしいですか。具体的にどういうことをしようと思っているのか等ありますか。</p>
事務局	<p>こちらは、取り組みとしては、子育てというところで、まず経済的な視点からです。</p>

<p>委員 座長</p>	<p>まずは妊娠について、不妊治療をしている方々には、国で定めた保険対象となる治療に対して助成を実施していますが、市で独自の事業を拡充すること、本年度から中学生を対象に給食費の完全無償化を行っておりますが、無償化の対象範囲を拡充することなどを取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>ぜひそういう施策を推進し、広く周知できるよう、PRしていただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>それでは、次の政策分野2、地域の魅力が輝くまちに関していかがでしょうか。前回のものはイベントをやった回数だとか、そういったものをKPIにしていたところがありましたが、今回のものは具体的な割合、数・数値として踏み込んでいますので、そこは大きな変化として見ているところですか。いかがでしょうか。</p> <p>8ページの地域交通の関係ですが、コミュニティバスの方の平均利用者数を上げるということがKPIで入っています。今も高齢者にタクシー券を配っていますので、今後活用方針を検討しながら、コミュニティバスの平均利用者数だけではなく、タクシー券利用者数についてもKPIに加えていただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>もう1点。11ページの地域経済の活性化についてです。小美玉は農業が主産業ではありますが、商工業者についての記述がありません。後継者不足などもあり、地域経済は商工業の方が停滞しているというところもあります。KPIのところも、新規就農者数と農業だけ記載がありますが、例えば後継者の数など、農業だけではなく商工業、商業者も加えたKPI指標の検討が必要かと思います。</p> <p>地域産業というところですけども、当行も各市町村に金融機関・支店を置いています。やはり地域性によっていろいろ変わってくるかと思っています。笠間市、特に岩間地区の農畜産物のブランドとして栗があります。テレビでも栗を扱ったものが紹介され、それを観た方が実際に道の駅などに結構来ていて、菊まつりなどにおいてもその時期は渋滞が発生するほどの集客になっているようです。</p> <p>小美玉市にもいい商品がたくさんあるかと思いますが、やはりブランド化というところを前面にアピールできることは重要です。今、茨城県も非常に都内等に対してアンテナを張っているいろいろなやっているかと思っています。こちらは羽鳥駅もございますし、駅からの動線ができていますかと思っています。高速道路のインターも近い場所にあるかと思っています。何の商品・農業資産をブランド化していくのかは、きっとここから詰めいくことになるかと思っています。今もいろいろ乳製品、小美玉プリンなどあるかと思いますが、全面にできるものが出てくると、「小美玉っていうところだね」というようなものが生まれるとよいと思いました。</p>

座長	<p>他にいかがでしょうか。政策分野3の方に踏み込んだところもございましたので、政策分野3も含めてご議論いただければと思います。</p>
委員	<p>政策分野3について、先ほどのアンケートの中でも、高校生が小美玉市内を就職先とする考えは、他の市に住んでいる高校生に比べると低いという結果がわかったわけですが、人手不足の中で、企業が選ばれる側になっているかと思います。企業を選ぶ側にとっては、どこを見て選ぶのかというところでは、厚生労働省などの調査などを見ますと、今の若者は特に休日の多さや残業ができるだけ少ないか、結婚したときに育児休業がとれるか、となっています。以前ですと、例えば給料が高いところがいいとかだったのですが、そういったところから志向が変わってきている調査結果も目にとまります。政策分野3で、基本方向2の市民の「働く」を支援するというところで、KPIに、「くるみん認定企業数」と「企業説明会参加者数」と2つ項目がありますが、くるみん認定は育児休業制度などそのあたりの分野が優良な企業が認定されるものだと思います。若者はそれだけを見ているわけではございませんので、もっと全般的に雇用管理がしっかり行き届いている企業なのかどうか、働きやすい企業なのかどうか、育児だけではなくもっと全般を見ていると思います。</p> <p>先ほども申し上げましたが、休日が多いとか残業が少ないとか、年次有給休暇取得率が高いとか、そういったところを見ていると思います。なので、ハローワークが行う仕事である面もありますが、そういった雇用管理の改善を促すような機運の醸成といえますか、例えば具体的には雇用管理改善のセミナーなどを開催していただいて、市内の企業を集めて機運醸成をしていただくとか、働き方のところにも踏み込んでKPIに入れていただけないかと思います。代表的なところでは、若者雇用促進法という法律の中で、「ユースエール認定制度」というものが設けられております。こちらは中小企業、従業員が300人以下の事業主を対象に、若者の採用や育成に積極的で、雇用管理の優良な中小企業を応援する認定制度です。KPIの方に「ユースエール認定企業数」を入れていただけないでしょうか。</p> <p>加えて、くるみん認定ですとか、今のユースエール認定企業ですとか、そういった、企業が、例えば市の公共調達に係る部分でも加点評価が得られるような、入札の項目にも入れていただくようなこともよいと思っています。</p> <p>若者が見ている視点は、もっと幅広いところも見ているかと思えますので、そういったところにも踏み込んだKPIの方の項目を考</p>

座長	<p>えていただけないかなと思ったところです。</p> <p>やはり環境だとかワーク・ライフ・バランスだとか、そういったところも非常に重要視しているということもございますので、そこはいろいろご相談させていただきながら、事務局の方でもご検討の方、何卒よろしく願いいたします。他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>12ページに、児童生徒の職場見学、職場体験、学生の仕事体験の充実とありますが、具体的にどこまでやっているのかを教えてください。</p>
事務局	<p>現在市内の中学2年生を対象に、市内企業等に出向き、職場体験を実施しているところです。また、各小学校で独自に、地元の企業等にお声掛けをして学校に招き、その方にお話を伺いながら、市内企業等の紹介をしていただいている状況です。また、10ページの「産官学連携による地元雇用の創出」は、茨城大学に新たな学部、地域未来共創学環ができました。来年度から、学生の意向を通じて、市の方に来ていただいて、実際に働く機会を設ける予定です。小美玉市にある企業を含め、様々な市の魅力を知っていただければと考えています。</p>
委員	<p>1つの例になるかどうかわかりませんが、保育所でやっている学童がありまして、夏休みにも子供たちが毎日来るため、福祉の求人を出すのですがなかなか採用に繋がりません。そこで、そこを卒業した子たち、ちょうど高校生や短大生、大学生になる子に、アルバイト募集のような手紙を出すことを今年初めてしてみました。それを通じて、福祉や教育の仕事やってみようかとか、あとは地元の長期休みのときのアルバイト等ができると、地元の仕事に対しての経験ができて、地元にも仕事があるのだとか、そういったことを思ってくれることに繋がってくると思います。小美玉市内でも高校生・大学生が夏休みを利用して働くような機会が、次へ繋がっていくと思うので、そういうこともうまく記載していただければよいのではないかと思います。</p> <p>夏休みは自由な時間となるので、この機会に社会に出て、お給料ももらえるとなると、保護者の方にはとても喜ばれました。月4万円とか5万円ぐらいのお給料だったのですが、それでも何か体験できたことや地元で働くということについて保護者の方から反響をいただきました。何か参考にさせていただければなと思います。</p>
座長	<p>他にいかがでしょうか。</p> <p>それでは、政策分野4「人の流れ」を生み出すまちについて、ご意見の方どうぞよろしく願います。</p>
委員	<p>移住定住のことは、今全国的にも各地で取り組んでいることが多いと思います。先日聞いた話ですが、東京で自ら会社を立ち上げて</p>



事務局	<p>いる方が副業として何かすることを考えていて、地方に行くと、起業している方の相談役のような仕事があるということでした。都内の方から茨城や千葉、各地に来て、一日の日当は5万円程という話でした。副業をする方を地元でやっている産業の方が受け入れることができると、地元にはない都内で行われているいろいろな技術を使って繋がれて、また地域の産業も活性化していくという。移住定住の手前にそういう働き方、副業的な働き方の部分が乗っかっていたりすると、住んでみようかとか、また来てみようかということに繋がる効果があるという話を聞きました。</p> <p>そういう分野がもし記載できるとしたら、どういうところになるのかお聞きできればと思います。</p> <p>今、政策分野4についてお話いただきましたが、政策分野3の方の関連する取り組みで、「起業・スタートアップの支援」というところがございます。</p> <p>こちらは国の方で、創業など地方で新たな事業を立ち上げる場合、相談から初期投資、フォローアップ支援というものがございます。国の方で進めているということで、当市の方でも活用することを検討していきたいと考えています。</p>
委員	<p>地元にある企業に副業的に関わるという形での繋がり方は、まだ想定していないということでしょうか。</p>
事務局	<p>副業では、企業が独自に人材確保のために高い給料を出し、首都圏にいる優秀な人材、スキルを得るために取り組んでいることと思われる。企業独自の副業支援は、現在のところ想定しておりません。</p>
委員	<p>茨城県プロフェッショナル人材戦略拠点という、ひたちなかテクノセンターにあるところで、自分の能力を生かして、休日を利用して相談を受けるというものをやっていました。県も含めて、市がこういったものにどう関わっていくかとか、そういうところを問われているのだと思います。</p>
委員	<p>移住定住の促進のところで、二地域居住希望者への情報発信とありますが、都内と小美玉に住んで仕事をするというようなものを想定されているということでよろしいですか。二地域居住希望者というのはそういうことで合っていますか。</p>
事務局	<p>そういったものももちろんありますが、週末だけ小美玉市に来ていただいて、都会から離れて少し落ち着いていただく時間を取っていただくとか、そういったものを想定しております。</p>
委員	<p>就労的な面で二地域居住するようなパターンもあると思います。そういう方向への支援を拡充する、例えば都内で働いている人が小美玉に住んで、週に1、2回都内に出る際に通勤費出す等があると、</p>

事務局	<p>こういった動きが進むかと思いますが、そういうことも想定はされていますか。</p> <p>そちらについては、現状では空き家を活用するなどしてこちらに生活拠点を設けていただいた場合には、空き家取得に対する補助といったものはございます。こちらに暮らしながら通勤していただくといった場合の通勤費補助等は、現状の政策では取り組んでいない状況です。</p>
委員	<p>であればぜひ、検討いただけるとよいと思います。ここに記載を求めるわけではありませんが。</p>
座長	<p>他にいかがでしょうか。それでは最後、横断的なテーマとして、「デジタル化により各施策を効果的に推進」に関して、ご意見・ご質問等ございますか。</p>
委員	<p>今回出てきたDXというところが、各施策の加速のために入れたようには見えません。このDXの案自体はいいのですが、「デジタル化により各施策を効果的に推進する」と書いていて、ただ読んでいて、これで本当に推進されるのかと疑問に思いました。</p> <p>各施策のところデジタルの話を入れて、絡めた方がわかりやすいかと思いました。例えば育児だと、デジタルによるマッチングのようなことを書いています。「保育業務のICT化による業務の効率化」というものもおそらく、各保育の施策のところ絡んでくるのかと思っています。そこにきちんと紐づけて、「ここをこうしたいから、デジタルを使って促進するのだ」ということがわかる形にした方がよいと思いました。この書き方が悪いと言いたいわけではないのですが、デジタルが急に出てきているように感じてしまいました。おそらく、資源と人材、要はお金と人はだいぶ限られてきていると思います。デジタル化したときに、すごく金がかかる分野だと思っています。そうしたときに、どこにお金をかけるのかということをしかり考えた上で、各施策を本当に進めるためにデジタルを入れるなら、ここの施策を進めるためにこれをやるのだというようなことを書かないと、おそらく「予算がないからできません」とどんどん中止になっていくのではないかと心配しています。</p>
座長	<p>それぞれの政策分野が1から4まであって、それを横串に刺すということだと思いますが、それがどこのことを刺しているのかがわかりづらいということです。</p>
委員	<p>きちんと横串を刺した上で、各施策のここにデジタルをこう入れていく、というようにやらないと、このデジタルの部分だけ浮いていて、進めていったときに中止となる話が多く出てくる可能性を心配しています。何となく書き出しました、という形になってしまうとよろしくないと思っています。</p>

座長	<p>デジタルの方向性を政策分野が4つある中に入れて、例えば最後のページのところにアウトカムのような形で、こういう社会が生まれる、政策が生まれその結果こうなった、ということが読み取れば理解できるのですが、その先の部分がないので連動性が感じられません。</p>
事務局	<p>横串を具体的に表した方がよいのではないのかという点ですが、具体的に表しているのは、別の計画であるDX実施計画で対応しています。これは、各担当に「この業務をオンライン化すること」、またオンライン化するにあたっては、例えば「こども課のこういう手続きを、いつまでに、こういうやり方でやりなさい」、といったことを具体的に、所属課・担当課と併せ決めています。</p> <p>これを、総合戦略において各種施策について大綱的に記載しています。横断的といいますか、各部署全部絡むようなもの、例えば「フロントヤード改革による市民サービスの向上」と書いてありますが、これは2つあります。1つ目は各所管課が持つ、行政手続きは今まで紙でやって、押印させて、郵便で提出させることを全部スマホで申請させる。役所に来させない窓口、これが1つです。2つ目は、役所に来たら、マイナンバーカードを読み込み、今まで住所、氏名、年齢等を書いている書類をなくすこと、書かない窓口と言われるものです。</p> <p>こういったものを市民課であったり、福祉関係であったり、全庁的に進めるような施策を記載し、具体的な内容はもっと詳しいDX実施計画というところで別に計画を作っています。この計画の進捗管理はまた私どもの別組織、行革懇談会という委員会があり、そちらでしっかりと進捗管理をします。その結果が、最終的にはこの総合戦略の1から4の政策分野の方で数字が出せるよう、そういったところを連携しながらやって参りたいと考えております。</p> <p>全体の計画は、国のデジタル庁あるいは総務省から、「市町村はこういうふうに進めなさい、その代わりデジ田交付金で、こういうところはきちんと手当をする」という流れが、各自治体におりてきています。そこから紐づいてしっかりと各所管までおろして、いつまでにやるというところを作って参ります。ここで表しているのは、国の方でやると決まっているところを記載しております。</p>
委員	<p>例えば、ペーパーレス化を推進するときに、今まで紙で対応してきた人が、デジタル化をどんなふうに学べるかとか、学び直しができるか、そういったことも市で考えているというようなことはこの中に含まれているのでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらは行政のデジタル化ということで、我々内部の人間の紙文化を、データ化することです。データの活用というところも含まれ</p>

委員	<p>ているのですけれども、ペーパーレス化というところは、とにかくスマホで簡単にというところで解決するようなことです。今、目の前にあるタブレットもそうですけども、今まで会議資料として委員さんにも配っていたものも、こういったタブレットで共有できるよう進めていくという意味でのペーパーレス化となっております。</p> <p>施策D-3の「市民地域のデジタル力の向上」というのも、そこに含まれているのでしょうか。</p>
事務局	<p>ペーパーレス＝「データを活用して」、というようなイメージです。「市民、地域のデジタルの向上」については、DXとは、ウェルビーイングという表現もあったかと思いますが、市民の幸福度を上げるという目的があります。地域、市民がデジタルを活用して幸せだと感じる。数値は県の方でも出しているところですが、その数値が果たして何なのかというところを出すことは非常に難しいのですが、そういったところを少しずつ上げていくということも目的であります。では何をしていくのかというところは、窓口の手続きなどを、基本的にはペーパーレス化していくということが大前提にあります。そういったところに、関わってくると思います。</p>
座長	<p>それでは、その他何かございますか。後ほど、もしこれは伝え忘れた、あるいはこういうような新たな情報がある等々も含めて、ご意見等ございましたら事務局の方にお寄せいただければ幸いです。議題は以上ということでございます。では、以降は事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>一番初めにご質問いただいた、結婚・出産・子育てについてのアンケート結果での課題の部分ですが、説明の中で触れてなかった部分がございます。調査結果のまとめというところで整理しております。例えば先ほどご指摘のあった部分については、結婚・出産・子育てに関するものの、ダイヤの上から3つ目です。小美玉市で子育てをしていきたい市民は3割のところ保護者は6割と、ここに差があるという部分です。</p> <p>それから移住定住につきましても、小美玉市に住み続けたい市民は約6割、保護者は8割、高校生は2割と、この差を埋めるための課題として、主語がなくてわかりづらいですがそういった意味で記述をさせていただいております。</p> <p>それから次のページで、先ほど委員からもご紹介いただいた部分ですけれども、就職先を決める際に重要なことといったようなところで、ここも回答を得ています。最も多かった部分で、保護者では「休みが取りやすい」が約7割、高校生は「興味のある仕事である」が約8割というような回答が最も多くなっております。</p> <p>まとめの部分を補足させていただきました。</p>

事務局	<p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p>委員の皆様におかれましては長時間にわたりご協議をいただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>それでは以上をもちまして第3回小美玉市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会いたします。大変ありがとうございました。</p>
-----	--